

論壇

預貯金の価値目減り

もう15年以上前のことになるが、高校卒業30年の同窓会があり、そこで話をするように言われた。同級生の前で話をするのは気が引けたが、せっかくなのお話であるので、お引き受けることにした。講演のテーマはもう決まっていると言われた。「最後の安心」について話をするようにということだ。

伊藤 元重
機構開発研究所 教授
東大 東大 東大 東大
総合研究 理事長

私のメッセージだった。

人生は長い。今はデフレであっても、5年後、10年後どうなるかわからない。インフレが起きれば思わぬ損失を被ることもある。日本経済の長いサイクルを見ても、海外の国の経験を見ても、インフレは必ずある時期には到来するものだ。その時のために心の準備を

だろうと思う。現役時代に一生懸命に蓄えた老後の資金を預貯金などで持っていれば、あつという間にその価値が23・2%も目減りしてしまうからだ。

高齢者にとって、特に資産の大半を預貯金で持っている人にとって、インフレは恐ろしいものである。今すぐインフレになると言っ

今からインフレ対策を

しておいた方がよい。それが私の話であった。

私たちの世代が高校を卒業して少したった頃（昭和48年）、日本を狂乱物価が襲った。物価上昇率は23・2%であった。私たちはその頃まだ若かったからよい。その頃に引退していた人は大変だった

ているわけではない。ただ、人生は先が長いから、いずれそうした事態になるかもしれない。今からインフレへの心の準備をしておいた方がよい。それが同級生の前で話した結論であった。

話を終えた後、「ではどのような資産運用をしたらよいのか」と

個人的に質問してきた人もあった。それに対する私の答えは、「別に明日からインフレになるわけではない。時間はあるので、人からの押しつけの考え方を聞くのではなく、自分の頭で考えてみたらどうでしょうか。そのために、経済の講演会などにマメに足を運んだりよいでしょう」というものだった。

判断力付け自ら運用

資産運用は他人任せにするものではない。プロでも運用で大きな失敗をすることはよくある。最終的には、一人一人がそれぞれの資産運用をきちっと考える必要がある。そうした判断ができるような経済や金融を見る力、つまり経済リテラシーを育てること

が必要であると思う。自分のお金の運用を人任せにしないで、自分でしっかり判断しなくてははいけない。

さて、アベノミクスでデフレの時代が終わろうとしている。デフレが終わることは結構なことだが、だからこそ将来のインフレへの備えも重要となる。人生の先は長い。本当に厳しいインフレになる可能性だって否定できない。だからこそ、いざという時の備えが必要となる。

15年前に同級生の前で話したときよりも、今はより真剣に同世代の人たちに伝えたい。人生の先は長い。インフレだって起こりうる。方が一そうした事態になっても困らないように、今から備えておくではないか。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。